

IRIS SANGUINEA VAR. TOBATAENSIS

戸畑あやめの育て方



1月 ▶ 2月 ▶ 3月 ▶ 4月 ▶ 5月 ▶ 6月

株分け

発芽

開花・肥料

土壌

- ◎酸性(ボラ土:川砂:赤玉土を1:1:1で配合したものなど)を好みます。
- ◎地植えする時は、畝を作ると水はけがよくなります。



肥料

- 種類: 燐酸カリ系を使います。
- 時期: 花の開花後(5月)と来年の花芽をつけるとき(9月)に与えます。
- 方法: 根元から離してバラバラと撒き、その上に軽く土をかけます。
※油粕などの窒素系は絶対避けてください。

- 育て方が難しいように見えますが、寒さや病気には強く、丁寧に育てると、きれいな花を咲かせます。

- 高台乾燥地に自生していたものなので、風通しがよく日当たりのよい場所を好みます。

7月 ▶ 8月 ▶ 9月 ▶ 10月 ▶ 11月 ▶ 12月

肥料

水やり・その他

- ◎地植え、鉢植えとも表面が完全に乾いたら、水をたっぷり与えます。
- ◎根切り虫対策で消毒をしてもかまいません。
- ◎軒下や植木の下は、風通しと日照が悪いため、置くのは避けてください。
- ◎雑草を見つけ次第抜き取り、常に風通しをよくしてください。

株分け

- ◎鉢植えでも地植えでも3年に1回は株分けが必要です。
- ◎3、4芽にばらして植え付けてください。
- ◎根が横に広がるため、鉢植えする時は、大きさに余裕がある鉢を選びましょう。
- ◎時期は葉の上部が枯れ始める2月~3月頃です。この期間内でも気温の低い日は避けてください。



学名が つきました

- ◆学名 *Iris sanguinea* var. *tobataensis* (イリス サングィネア パラエティー トバタエンシス)
- ◆和名 トバタアヤメ

THE LEGENDARY FLOWER TOBATA AYAME

伝説の花

戸畑あやめ



「戸畑あやめ」は草丈が低く、葉陰に可憐な花をつけるのが特徴です。

明治末期まで戸畑の原野にのみ自生し、その後絶滅したと考えられていましたが、昭和33年、区内の農園で栽培されていたことがわかり、以来、地域の方々によって保存・普及活動が進められてきた「伝説の花」で、戸畑区以外ではほとんど見ることのできない貴重な花です。

平成21年12月、国立科学博物館の研究者が発表した論文により、日本固有のあやめの1新変種として、「戸畑」にちなんだ学名がつけました。



▼▼▼▼ 「戸畑あやめ」を育ててみたい方は、こちらへお問合せください ▼▼▼▼

とばたあやめを育てる会

地域住民が中心となり、株分け、苗の配布、育て方講習会やまつりの開催など、「戸畑あやめ」の保存活動を行っています。



お問い合わせ先 ▶ 大谷市民センター TEL:093-881-4151
URL: <http://www.ktqc01.net/toba/otsf/index.html>